

令和6年度 鳥獣被害アンケート集計結果について

- ・調査対象 町内認定農業者
- ・調査方法 アンケート用紙
- ・調査期間 令和6年度中(2024年4月~2025年2月末)

・作物ごとの被害

被害品目	件数
スイカ	14件
トウモロコシ	6件
稲	4件
落花生	2件
トマト	2件
ブルーベリー	1件
ホウレン草	1件
人参	1件

・獣種ごとの被害

獣種	割合
カラス	32.1%
ハクビシン	30.3%
アライグマ	19.6%
タヌキ	8.9%
その他	9.1%

作物・獣種について

・被害品目は、野菜や果樹を中心に被害が発生していることが分かった。中でも、スイカ、トウモロコシについては多くの被害があった。

・獣種ごとの被害は、ハクビシン、アライグマなどの小型獣が多く、鳥類に関してはカラスが多かった。その他の獣種は、イノシシやキジ、ムクドリ、スズメなどの鳥類である。

・イノシシについての被害自体は微少だが、前年よりも多くの掘り起こし形跡や目撃情報を確認していることから、町内で活動している個体が増加していると考えられる。

・被害場所(地区)

地区	件数
高田	8件
小池	3件
牧野	2件
菱田	2件
山中	2件
不明	4件
下吹入、高谷、住母家、大里 朝倉、岩山、山田、香山新田	1件

・行っている対策

対策	件数
電気柵	11件
テグス	9件
防鳥ネット	9件
箱わな	3件
その他 (ラジオ、疑似ガラス)	3件

被害場所・対策について

・被害場所(地区)は町全域で被害があることが分かった。中でも高田地区については、多くの被害があることが確認できた。町内の全域にて鳥獣が定着していることが考えられる。

・対策については、電気柵、テグス、防鳥ネットといった手法が多く活用されていることが分かった。(ハクビシンなどの小型獣には電気柵、カラスなどの鳥類にはテグスや作物を囲う防鳥ネットを活用している。)

・その他についてはラジオ、疑似ガラスによる追い払い対策である。

・箱わな(捕獲)による対策はあまり活用されていないことが分かった。